

## ➤ 27日 水曜

### ヘブル

12:18 あなたがたが近づいているのは、手でさわられるもの、燃える火、黒雲、暗闇、嵐、  
12:19 ラッパの響き、ことばのとどろきではありません。そのことばのとどろきを聞いた者たちは、それ以上一言も自分たちに語らないでくださいと懇願しました。

12:20 彼らは、「たとえ獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない」という命令に耐えることができませんでした。  
12:21 また、その光景があまりに恐ろしかったので、モーセは「私は怖くて震える」と言いました。

12:22 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、  
12:23 天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、

12:24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。

12:25 あなたがたは、語っておられる方を拒まないように気をつけなさい。地上において、警告を与える方を拒んだ彼らが処罰を免れなかったとすれば、まして、天から警告を与える方に私たちが背を向けるなら、なおのこと処罰を免れられません。

12:26 あのとときは御声が地を揺り動かしましたが、今は、こう約束しておられます。「もう一度、わたしは、地だけではなく天も揺り動かす。」

12:27 この「もう一度」ということばは、揺り動かされないものが残るために、揺り動か



されるもの、すなわち造られたものが取り除かれることを示しています。

12:28 このように揺り動かされない御国を受けるのですから、私たちは感謝しようではありませんか。感謝しつつ、敬虔と恐れをもって、神に喜ばれる礼拝をささげようではありませんか。

12:29 私たちの神は焼き尽くす火なのです。

ここでは忘れてはならないこと、すなわち終わりの日とさばきについて言及されています。それは「たとえ獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない」というほどの、神の厳肅さであり恐ろしいばかりの栄光の現れです。

しかしそれだけでなく、イエス様の栄光はそれら旧約の出来事よりもはるかに大なるものであることが述べられています。ですから「語っておられる方」すなわち聖霊を拒んではならないのです。聖霊に逆らうようであれば、私たちは神に従う可能性はなくなってしまいます。

また、そのようなことのない正しい生き方は、さばきへの恐ろしさから逃れたいという動機によるものではありません。「生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいている」という希望によってもたらせれるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

